

出版社より

ベトナムは2020年に「近代的な工業国」入りを目指している。工業化と近代化の達成のためには、科学技術における知識および高い品質の労働力が決定的な生産要素になる。第11回党大会の文書には次のように書かれている。知識経済は国の工業化と近代化の重要な要素である。我が国が置かれている国際的環境における利点と国の潜在的な力量を活用して、工業化と近代化の過程および時間を短縮し、発展した知識経済を基盤とした社会主義を目指す。

科学の進歩と技術革新により、ベトナムのような低開発国でも現代の科学技術に接近することができる。先進国との距離を縮めるために、工業化と同時に知識経済、ハイテクノロジーへの直線的なアプローチを探らなければならない。国家と党は、経済の品質を飛躍的に発展させるために、近代的な技術の習得と理解力を強化し、科学技術の潜在力の開発に休むことなく注力していかななければならない。

工業化の実施過程で、我々は現代的なステージへ早く達するように、主要なサービス部門と製造業での技術革新とレベルの向上を達成させなければならない。他の諸産業に影響を与える主要な製造業、輸出商品の製造、新たな投資において直接的に現代技術を取り込み、IT技術、バイオ技術、新素材技術、機械製造技術などのハイテクノロジーを獲得する必要がある。

21世紀は20世紀に予告された問題、例えば気候変動、海面上昇、社

会階層間および都市と農村の格差の拡大、医療サービス、教育サービス、老後のケアサービスの不公平、社会保障の問題などが現実化している。そこで、このような問題が経済発展や社会保障および生活環境の保障の矛盾につながらないようにすることである。先進国の社会および経済発展の過程でそれらの問題に対する解決方法は、発展途上国にとって貴重な経験になっている。

この本を通して読者が、各著者の認識による知識経済の発展に伴う「後発者」の利を活用し、今後の我が国の発展の基本的なモデルに対するイメージを形成できれば、この上なくうれしく思う。

本書の多くの内容は、フリードリヒ・エーベル財団のスポンサーの下で、著者とドイツ連邦共和国との持続可能な開発に関する共同研究の成果である。ドイツ連邦共和国のカイザースラウテルン工科大学のMicheal Von Hauff 教授より持続可能な開発に関する基本的な理論を紹介して頂いた。

本書には十分に整理しきれていない点もあるので、ご批判をいただいでより充実させたいと念願しており、諸氏の叱咤をお願いする。

